

平成 20 年 1 月 29 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ぱ ど
代 表 者 名 代表取締役社長 倉橋 泰
(コ ー ド 4 8 3 3)
問 合 せ 先 取締役管理本部長 鈴木 博士
(T E L . 0 4 5 - 2 1 2 - 8 1 5 0)
<http://www.pado.co.jp>

中国におけるフリーマガジン事業の見直し
および本件に伴う特別損失計上に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 1 月 29 日開催の取締役会において、中国におけるフリーマガジン事業より撤退することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 中国におけるフリーマガジン事業の経緯と当社撤退の理由

当社は、平成 19 年 6 月 19 日に株式会社チャイナ・コンシェルジュ（以下、CCG）および三井物産株式会社（以下、三井物産）とともに中国においてフリーマガジン事業を目的とする合弁会社を設立することに合意し、上海市において合弁会社への事業継承を前提に、CCGを発行母体とする現地OL向けライフスタイル提案型フリーマガジン「迷哈(MeHer)」を6月20日に創刊いたしました。

その後、「迷哈(MeHer)」を月刊発行し、上海におけるフリーマガジンの事業モデルを試行しつつ会社設立準備を進めてまいりましたが、当該フリーマガジン事業については、当社が撤退し、CCGの一事業として移行継続することで本日関係者の最終合意に至りました。これに伴い、合弁新会社（上海派都図文策劃設計有限公司【仮称】および「上海派都广告有限公司【仮称】」の設立は見送ることといたしました。

当社としては、中国において宅配型フリーマガジンと飲食店等の地場広告主からの広告出稿をベースとした事業展開を検討してまいりましたが、現在の中国国内の社会状況では時期尚早であり、当社のノウハウを活かせないこと、むしろ、現地進出の日本企業等の大手広告主や広告代理店の広告出稿をベースとした事業モデルとして有望であり、既に中国国内においてその分野の営業ノウハウを有する CCG 主体の事業に移行することが適切であるとの判断から、当社撤退による事業主体の変更を決定したものです。

また、日本国内における当社の既存事業において、不採算地域の休刊、エリアの再編成、営業所の統合等のリストラクチャリングを推進するなど、経営資源の集中を図り早期の業績回復

を目指している中では、早い段階での撤退が最善の策であるとの経営判断でもあります。

「迷哈 (MeHer)」につきましては、当社主体事業からCCGの単独事業に移行し、引き続き発行される予定です。

2. 業績への影響

今回の決定に伴い、44,000千円を特別損失として連結、個別ともに計上いたします。

なお、本件による影響を勘案した平成20年3月期業績予想数値につきましては、本日発表いたします「業績予想の修正（連結・個別）に関するお知らせ」に記載の通りであります。

以上